

2008 年度

<p>科目名</p> <p>書道科教育法 A</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部日文 3 回生</p>	<p>担当者</p> <p>永田 誠</p>			
<p>授業テーマ</p> <p>高等学校教育での芸術科書道の意義</p>					
<p>授業の概要と目標</p> <p>高等学校の芸術科書道の実践を通して、書を愛好する心情や感性・豊かな人間性や社会性を育成すると同時に書写能力を高める本質を考察する</p>					
<p>評価方法</p> <p>実践した作品やレポート、授業態度、出席 (2 回以上欠席した場合は、単位の取得を認めない。遅刻 2 回を欠席 1 回とみなす。)</p>					
<p>テキスト</p> <p>文部科学省検定教科書</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p> <p>大阪書籍</p>			
<p>参考書</p> <p>指導資料</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p> <p>大阪書籍</p>			
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学校の書写教育のあり方と高等学校の書道との関連と違いを理解し、芸術科書道の意図を考察する。 2 和・漢の書の歴史的変遷を考察し、用具・用材・毛筆の特性を理解する。 3 「漢字・仮名まじりの書」の生徒作品を鑑賞し、書写から書道への系統性を考察する。 4 3 で考察したことを、運筆のリズム、墨の濃淡・潤渇・筆圧・文字の大小・構成等に注意し実践し考察する。 5, 6, 7, 8, 9, 10 書道 I <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="vertical-align: middle;"> 「漢字の書」(楷書) 「漢字の書」(行書) 「漢字の書」(隷書) 「仮名の書」 「篆刻」 </td> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle; padding: 0 10px;">}</td> <td> 高等学校の教材に出題されているさまざまな古典、古筆、刻字を鑑賞し、また実践を通じて学び、既成の指導案を参考に、指導目標、指導内容、指導の留意点、評価等を考察する。 </td> </tr> </table> 11, 12, 13, 14 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 で学習したさまざまなジャンルを参考に、創作活動の指導を計画し実践する。 15 日本、中国の書の歴史、文化の現代的意義をレポートにし提出する。 			「漢字の書」(楷書) 「漢字の書」(行書) 「漢字の書」(隷書) 「仮名の書」 「篆刻」	}	高等学校の教材に出題されているさまざまな古典、古筆、刻字を鑑賞し、また実践を通じて学び、既成の指導案を参考に、指導目標、指導内容、指導の留意点、評価等を考察する。
「漢字の書」(楷書) 「漢字の書」(行書) 「漢字の書」(隷書) 「仮名の書」 「篆刻」	}	高等学校の教材に出題されているさまざまな古典、古筆、刻字を鑑賞し、また実践を通じて学び、既成の指導案を参考に、指導目標、指導内容、指導の留意点、評価等を考察する。			